



小林 有希（妻）

宮崎県 綾町  
(出身地：長野県 1ターンの)

小林 正明 (写真右)

年齢 : 32歳

宮農類型：露地野菜180a

(有機野菜：ケール、ビーツ等)

経営構成：・本人

・妻

・アルバイト (1名)

### 就農のきっかけ

祖父が兼業農家でリンゴを栽培していたことから、農業は幼い頃から身近にありました。就職を考えていた時期に体調を崩したことで、より健康志向が高まり、心と体が健やかであるためにやりがいを持つ仕事をしたと思うようになったのが、農業を始めるきっかけになりました。

農業の中でも有機農業にこだわり、就農準備の段階から有機農業について学びました。身につけた知識を農業に活かし、消費者に還元できるように、日々試行錯誤しています。

### 地域とのつながり

宮崎県綾町は、先駆けて有機農業を推進してきた地域ということもあり、有機農業に取り組む生産者が多くいます。その方々と日々の情報交換はもちろん、綾町有機農家の一員として、また『綾オーガニックスクール』の研修農家として、次世代の農家育成にも力を入れています。

町の農業分野窓口は、とても相談しやすいです。また、綾町は有機野菜に力を入れているため、ふるさと納税でも、有機野菜が選ばれ大きな販路となっています。

### 就農時に活用した支援（次世代人材投資事業（準備型・開始型））

有機農業を学ぶために、準備型を受給し、高知県土佐町の『有機のがっこう土佐自然塾』で基本的な知識を習得しました。その後、就農から開始型を受給しています。こういった支援があることにより、失敗を恐れず挑戦することができ、ありがたいと感じています。

### 現在の課題について

世界的なインフレにより、肥料・資材が高騰しています。併せて天候が悪い（高温・多湿・低日照）状況です。農業経営のうえで、天候の安定が一番重要です。天候のブレを補正するために技術で補っていくと思いますが、有機農業についてはブレを補正する能力が弱い分野です。

天候の安定は経営安定に直結します。経営安定のために、価格転嫁をしっかりとし、単価を上げていく必要があると感じています。有機野菜は、特性として契約先へ固定価格の取引が多く、なかなか単価があげられないのが現状です。こういった状況ではありますが、しっかりと有機栽培のリスクを消費者にも理解していただき、農業経営が続けられる適正価格での取引を進めています。

### 新規就農者に向けて

有機農業については特に、品目を絞って、バイヤーの目線でどの時期に何を栽培して幾らで売っていくか、そのために何が必要かを見極めることが必要です。そのうえで設備投資をしなければ的外れな投資となり無駄になります。他の人の失敗を知って、それを生かし必要な知識を付けたうえで設備投資を行っていただきたいと思っています。

### 今後の目標と取組みについて

機械の活用や肥料の入れ方を考えながら収量を上げていくとともに、『栄養価日本一』を目指していきたいと思っています。健康な作物を育て、食べていただく方も健康を高め、幸せを感じていただきたいです。